

めっど@mama X KIDS TOKEI

生後2ヶ月から受けられる予防接種。今回は川崎医科大学 小児科学 尾内一信先生。
ワクチンが果たしてきた役割について教えてもらいました。
さらに今回は、予防接種“BCG”にスポットを当てて尾内先生が解説します。



先生紹介/
尾内 一信 先生

川崎医科大学医学部小児科学主任教授・川崎医科大学小児医療センター小児科部長
日本小児アレルギー学会理事、日本小児感染症学会理事、日本小児保健学会、日本小児呼吸器学会、日本小児救急医学会、日本小児科学会の委員を歴任し、感染症、アレルギーを中心に子供の病気について厚生労働省の委員会メンバーとしてクリニックの先生に指導をおこなったり、子育てママにセミナーをおこなっておられる先生です。

どうして毎年
制度が
変わっちゃうの?

お兄ちゃんの時はなかった予防接種が下の子の時には増えた…など、年々変わる制度に戸惑うお母さんも多いはず。新しいワクチンが開発されて赤ちゃんをより病気から守れるようになったり混合ワクチンや同時接種ができるようになってママの負担を軽くできるように毎年制度を見直しています。



Q
ママの
ギモン

自分の時はこんなにたくさん
予防接種がなかったと思うけれど
全部受けた方が良いの?

A
先生の
回答

確かに昔に比べて受けられる予防接種の数は増えていますが、しかし、それによって、昔は毎年たくさんの死亡者を出していた感染症が激減しています。

※右上の表を見ても、おじいちゃん・おばあちゃん世代にはなかったワクチンが開発された事で、今では感染症で亡くなる子供がほとんどいなくなっているのがわかりますよね。長い目で見て、未来のために予防接種で感染症自体がゼロになるのが理想。そのためには今受けられる予防接種は受けておいた方が良いでしょう。

ワクチンの果たしてきた役割(日本)

ワクチン	1950年代に比べ	1950年前後	最近数年
百日咳	10,000~17,000人	0~5人	
ジフテリア	2,000~3,800人	0人	
破傷風	2,000人	10~15人	
ポリオ	数百~1,000人	0人	
麻疹	数千~20,000人	10~20人	
日本脳炎	2,000人前後	0~2人	

出典:「国民健康の動向」

今ではほとんど
発症しない病気は
予防接種なくて
良いのでは?



日本ではほぼ発症しなくても、海外でかかった人が国内に持ち込む可能性があります。その時、予防接種をしていないと感染症は広がってしまう。だから、国内で発症しないものも受けておいた方が良いのです。

Q
ママの
ギモン

自分が受けていない予防接種。
大人になった今からでも
受けた方が良い?

A
先生の
回答

今からでも受けておいた方が良いものもありますので、医師に相談してください。特に海外旅行をする前には必要なものもあります。自分が何の予防接種を受けたか、母子手帳などで確認できると良いですね。



BCGって
何の感染症の
予防なの?



BCGは結核を予防するワクチンです。今ではあまりかかるとは思われますが、世界的に見ると日本はまだ中程度の蔓延国。(10万人中18人)特に子供がかかると重症化しやすいので、乳幼児には重要な予防接種です。

Q
ママの
ギモン

跡が残るのがイヤ。
なんで目立つ腕にするの?

A
先生の
回答

たまに別の場所にして欲しいというママもいらっしゃいますが、腕の中央部以外の場所にすると十分に効果を得られなかったり跡が広がったり(orひどくケロイド状になったり)してしまうので、接種場所は(予防接種ガイドラインという)法令で定められているのです。



今回参加してくれたママ



ママモデル
板橋 瑞美さん



ベビーマッサージ
最新ママ
上紙 夏花さん



ブロガーママ
岡田 咲子さん



保育士ママ
城 祐子さん



元タレントママ
二階堂 里恵さん

子育てママのための医療情報WEB



めっど@mama 公式サイト
<http://mama.jp.net/>

OPEN!

めっど@mama

検索